

平成27年9月29日(火)

老球の細道168

見る、まねる、学ぶ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

私は小学校の頃、今のミニバスの子も達のようにバスケットボールに明け暮れることなく、もっぱら外では野球、室内では相撲やプロレスに熱中していた。当時のテレビのスポーツ番組でも、野球、大相撲、プロレス中継は毎日食い入るように欠かさず見ていた。あの頃の選手の名前とファイトシーンは今でも覚えている。

この3つのスポーツに関しては、誰から指導されたというわけではなく、ほとんどテレビを見て、見よう見まねですべてマスターしたといっても過言ではない。野球では長嶋、王のバッティングフォーム、広岡のゴロさばき、プロレスでは力道山の空手チョップ、ジャイアント馬場のジャイアントスイング、アントニオ猪木のコブラツイスト等。テレビで見るとすぐに真似をして自分で試してみた。物まねが得意だったのでスポーツの上達にも役だったのかもしれない。

NBAのスーパーstar、ステイファン・カリーは日本の『月刊バスケットボール2015・11月号』のインタビューに次のようなコメントを述べている。

「試合での状況判断を良くするために、どのようなことをしていますか？」

【映像での研究をたくさんしています。自分のプレイだけでなく、他人のプレイを見ますね。うまい人たちはいったいどうやって決断しているのか、どのように遂行しているのかを頭に入れて、その上で練習に取り組むようにしています。一に練習、二に練習、とにかく練習を繰り返し、うまくなるまでやり続けることです。

その中で、僕の場合はバランスとフットワークを重要視しています。それがなければ、高速で動いている時に、必要に応じて方向や速さを即座に変えることができないからです。でももっと重要なのは、ゲームを見ることだと思っています。なぜ、他の選手がうまくできているのかを、勉強させてもらっています】

色々なところでクリニックを実施した時に、NBA選手の名前を聞いても、日本の代表選手の名前を聞いてもわからない、プレーを見たこともない子どもたちがほとんどであった。特に女子にいたっては皆無に近いといっても過言ではない。百聞は一見に如かず。世界のスーパーstarたちのプレーを見るだけで子ども達のプレーは大変身する。

現在オリンピックや世界選手権、NBAやヨーロッパ選手権などは外国に高いお金を出して見に行かなくても、毎月の携帯料金のお金位でスカパーに加入すれば、世界のバスケットボールを映像で観戦できる。またインターネット等でも色々な映像が入手できる。超一流のイメージを携えて毎日の練習に励む人と自分の身の周りの人たちのプレーのイメージしか持たないで励む人では、練習にかけてる膨大な時間の差ははかり知れない。

指導者、そしてわが子の将来に夢を託す保護者達は、バスケットボールの映像環境にもう少しお金をかける必要があるのではないだろうか。常に世界に目を向けて、アンテナを張り巡らせ、大会やゲーム開催の情報、テレビ放映の情報を察知することに努力を惜しんではいけない。

「学ぶ」とは「真に似せる」の意味から「まねる」「学ぶ」という語が生じたと言われている。最高のモデルを見て真似ることがバスケットボール学習のはじめの一歩だと思う。